

年 組 名前：

甲府一高新聞部による「甲府一高新聞」が、7月に発行した第308号を最後に休刊している。現在の部員4人は全員3年生で、1・2年生が集まらず活動が難しくなったため。

創刊78年に及ぶ伝統の学校新聞が存続の岐路に立たされたとして、現部員は「形は変わても、今の一高を伝える新聞が続いてほしい」と復刊を願っている。(桑原久美子)

# 伝統の「一高新聞」休刊

## 3年生部員のみで活動困難 「形を変え復刊」後輩に期待

甲府一高新聞は1947年5月20日創刊。学園祭や強行選定などの行事を取り材し、年5～6回ほど刊行してきた。A3判の白黒印刷というスタイルを守り、全校生徒や希望者に配布。近年は学校ホームページでも公開している。

2025年度は1、2年生が入部せず、3年生4人で活動してきた。7月まで状況は変わらず、引退時期も近いため活動を続けられないと判断。8月以降の休刊を決めた。

現部員が2年生だった昨年10月には300号を突破し、記念特集号を発行。日本国憲法が施行された年に発行された創刊号から、100号(1965年)、200号(2008年の紙面)を振り返った。高橋玲衣部長は、「長い歴史ある新聞が私たちの代で途切れてしまうのは残念」と話す。

現部員は、新聞よりスマートフォンで情報に触れる機会が多くなる。部員の山本滉さんは、「時代での特色を出して、『今の一高』を伝える新聞を出して、くれるうれしい」と話している。

甲府一高新聞は08～10年にも部員が集まらず一時休刊した。甲府一高新聞は08～10年にも部員が集まらず一時休刊し、有志により復活した歴史がある。部員の伴野朱香さんは、「後輩たちによる復刊に期待し、一度途切れたものを再開するなら、何か変化を取り入れてもいいのでは」と話す。

高橋部長は「後輩たちにはその代での特色を出して、『今の一高』を伝える新聞を出して、くれるうれしい」と話している。

山本 昂輝 桑原久美子

(2025年11月13日付 山梨日日新聞17面)

問1 「甲府一高新聞」が、休刊している理由を答えてください。

問2 部員の山本さんは、オールドメディアの良さを、どのように話していますか。

問3 復活させるには、どのような取り組みが必要であると、あなたは、考えますか。